【No.R6-33-2】 みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

実施期間　令和７～11年度

実施主体　岡山県
都道府県　岡山県
対象地域　倉敷市、総社市
対象品目　いちご

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

いちご栽培は、栽培期間が１年以上と期間が長く、安定生産のためにはハダニ類等の病害虫管理が重要である。そこで、天敵製剤を活用してハダニ類を低密度に維持することで化学農薬の使用量を低減させるとともに農薬散布回数の減少による省力効果を実証したところ、その効果や散布の省力化、化学農薬使用量削減等の利点が確認できた。そこで、天敵製剤を用いた防除技術を地域全体に普及させ、環境負荷が少なく、かつ省力的な農業技術の拡大を目指す。

現在の栽培体系

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	備考
主な作業名	農薬散布	農薬散布				農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	
技術名	化学農薬を中心としたローテーション防除					化学農薬を中心としたローテーション防除							

▼

グリーンな栽培体系

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	備考
主な作業名	農薬散布					農薬散布	農薬散布	農薬散布		農薬散布	農薬散布	農薬散布		
								天敵放飼			天敵放飼		
技術名	天敵に影響の少ない剤をを中心とした防除 天敵、ハダニの定期的観察								天敵に影響の少ない剤をを中心とした防除 天敵、ハダニの定期的観察				

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6		目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	**2.7**	▶	**2.8**	地域のいちご栽培面積
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	**1.1**	▶	**1.8**	地域の天敵防除の導入面積
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	**1.1**	▶	**1.8**	地域の天敵防除の導入面積
省力化に資する技術の取組面積（ha）	**1.1**	▶	**1.8**	地域の天敵防除の導入面積

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行		新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化学農薬のみの防除	▶	天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶		

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状		目指すべき水準	備考
環境省力	化学農薬の使用回数（回）	**12**	▶	**8**	化学農薬12回→８回
			▶		
			▶		
			▶		

＊環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
＊化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

＊実証結果や天敵メーカー等の知見を基に栽培マニュアルを公開し、管内のいちご生産者に技術を周知する。また、資材メーカー、農協、農林水産総合センター等と協力し、導入戸数、面積の拡大を図る。

関係者の役割

関係者名	資材メーカー	JA晴れの国岡山	備南広域農業普及指導センター	農林水産総合センター
役割	最新情報の提供	生産者のとりまとめ、資材の供給	技術の普及・拡大推進	技術指導

その他